

## 令和6年度 とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	台東区立根岸幼稚園
所在地	台東区根岸3-9-7

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

表現

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など)

この地域は学びのキャンパスというほど、博物館・動物園などの文化施設、江戸時代から続く伝統文化の発信地であり、幼児が幼稚園から徒歩で行くことができる近さにある。そのため、芸術や伝統文化に触れる機会は多い。近くには東京藝術大学もあり、学生が多く居住している。幼稚園は、普段関わることがほとんどない幼児と学生の交わることのできる場所である。

さらに園の近くには正岡子規が住んでいた子規庵がある。根岸幼稚園は明治22年に開園しており、正岡子規が「十月の桜咲くなり幼稚園」と根岸幼稚園を詠んでいる。その縁で、幼稚園でも20年近く俳句に関わった活動をしている。

このような環境を生かし、幼児の表現活動を通して感性を養い、心ゆたかな幼児の育成を目指すとともに、自分たちが住んでいる地域に親しみをもってもらいたいと思い、テーマを設定した。

### 2. 活動スケジュール

- ・朝コンサート・・・週3～4回程度 ・創立135周年、お祝いコンサート ・不定期コンサート
- ・俳句の会・・・月1回程度 (動物園での親子吟行・カルタ制作・カルタ会・振り返りの会 句集作成等)

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・人財 ・演奏を引き立てる舞台背景
- ・朝コンサートは子供たちが集って聴けるようなベンチ。
- ・お祝いコンサートでは、舞踏会を楽しめるような、スカート、リボン、マント、演奏を演出するキャンドル
- ・俳句を簡単な視点で捉えられるためのワークシート
- ・園児や親子の俳句を鑑賞できる場や期間の設定
- ・俳句をカルタにするための絵の具や、画用紙
- ・俳句集としてまとめる
- ・子規庵見学

#### 4. 探究活動の実績

##### <活動の内容>

- ・週3～4回 朝コンサートを行った。チェロ、ビオラ、バイオリン、和鼓の奏者が、朝の15分程度演奏をする。子供たちがその周りに腰掛け、クラシックを聴き、園歌を一緒に歌う。コンサート終了後に楽器に触れさせてもらったり、楽器について説明を聞いたりした。
- ・コンサートでは演奏に合わせて衣装を身に付けて踊ったり、その場で曲を作る体験をしたりして参加型プログラムを実施した。
- ・月1回程度の俳句の会
- ・親子で上野動物園に行き、動物を見ながら子供のつばやきを集めたりワークシートに取り組んだりし、講師にアドバイスをもらいながら俳句作りを行った。
- ・五文字の言葉やテーマに関する言葉など、言葉遊びをしたり、夏休みや日々の生活の中で作った俳句を講師に見ていただいて、振り返りを行ったりした。
- ・作りためた俳句の中からカルタを作り、カルタ会を行った。
- ・1年間のまとめとして俳句集を作成する。

##### <活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

- ・音楽の強弱や速さ、音階の高さや低さなどを自分なりに感じ取りながら、じっくりと聴き入っている。生の演奏に合わせて一緒に歌っている。感動したことを素直に言葉にしている。自分たちで進んでコンサート会場を作り、演奏会を楽しみにする姿が見られる。
- ・ガイドとなる講師の先生が、子供の思った素直な気持ちを、作句をしてくれる。それを聞きながら、次々に子供たちが自分の思いを伝えるようになり、たくさんの句ができた。
- ・言葉だけで表すのではなく、親子でカルタにして絵を描いたり、みんなでカルタ会を開いたりした。自分と同じ思いだったり、自分とは違う感じ方だったりすることを、俳句を通して感じる。

##### <活動の様子>



## 5. 振り返り

(振り返りによって得た保育者の気づき)

- ・演奏に触れてどのような部分が主体的になっていくのか、人への関心の広がりだったと感じる。素敵な演奏をしてくれる人が、どのような人なのか、またその人と一緒に来た人はどんな人なのかを強く知りたくなる。自分のことも伝えたいくなるその繰り返しだったように思う。人と人が新しく会うことで輪が広がっていった。生まれるエネルギーを感じた。
- ・素敵な人に出会い、また次の演奏を楽しみにし、自然と演奏を聴く耳ができ、感性も豊かになっていった。
- ・俳句作りは幼児にとって難しいイメージもあるが、頭で考えるのではなく、直感的に作っていく感覚がすごく面白いと思う。

以上